



## 私にとってそろばんとは

三重県 名古屋工業大学大学院2年生 杵川 日向雅

三重県の椋本珠算学校に所属しています、杵川日向雅です。この度、「そろばんで凄い人」への執筆という大変貴重な機会をいただきました。誠に恐縮ではございますが、本稿ではこれまで私が向き合ってきた珠算について少し綴っていただけたいと思います。

私が珠算を始めたのは平成18年の6月、きっかけは父からの勧めでした。当時小学1年生の私は「ソロバン」が何かも分からず、嫌々教室に通っていたのを覚えています（笑）。とはいえ、幼い頃から負けず嫌いで何故か数字が好きだった私は、計算道具としてのそろばんの魅力や検定に合格した時の嬉しさに惹かれ、気付けば教室に行くのが楽しみになっていました。その後は様々な大会に出場させていただき、そのたびに目標に向かってがんばることで、競技としての珠算の楽しさにも気付いていきました。

私が幼い頃から、三重県には競技レベルの高い大人の方々が多かったことで、そんな彼らは未熟な私にとって憧れの存在でした。そして、練習会や大会へ参加させていただくうちに、その「憧れ」は「目標」に変わっていきました。練習のなかで目標にさせていただけるような人たちがいつも身近にいてくださり、それに向かってがんばる私をたくさんの方々が応援してくれる。そのような温かい環境が、私を大きく成長させてくれたのだと思います。また、私の世代（2000年前後生まれ）は、幼い頃から全国の最前線で活躍していた選手が多い世代なので、そんな素晴らしい選手たちを目の当たりにしてはまた憧れ…。私の成長は、いつも「憧れ」から始まっていました。圧倒的な実力を前に挫けそうになり、でもずっと「憧れ」のままではいられない。その繰り返しで、諦めずに少しずつ努力を重ね、多くの方々に支えられながら今に至ります。

これまで雑誌や新聞の取材で『あなたにとって

そろばんとは?』と聞かれることが何度かありました。私はその度に返答に困りながら、「いずれは何か答えられるように」と思い続けてきました。今は、私なりに一つの答えを持っています。

私にとってそろばんは、「がんばるものの大切さを教えてくれるもの」だと考えています。検定も大会も常に自分の限界へ挑むものなので、悔しいですが努力したこと全てが報われるとは限りません。それまでの努力とは裏腹に、本番で思い通りの結果が出せないことも多くありますし、報われるか分からないなかでがんばるものの意義が見えなくなることもあります。それでも、努力を続ければ何かは変わるかもしれません。努力をやめれば夢や目標は達成できなくなってしまいますが、諦めずにがんばり続けていれば成功の可能性は少しでも上がるかもしれません。「最高点を5点更新できた!」「最高タイムを1秒更新できた!」どれだけ小さくても、日々の練習のなかで少しでも変わっていくものが見つければ、がんばった意味は少しずつ見えてくると思います。努力の先に夢を掴めた時、自分を支え、応援してくれた方々への恩返しのできた時、がんばり続けた自分を心から褒めてあげられた時に本当の意味で「がんばってきてよかった」と思えるので、その瞬間をイメージしながら、多くの人への感謝を忘れず、私も日々がんばり続けています。とはいえ、思いも練習も詰めすぎると辛くなってしまいます（笑）。珠算を楽しむ・好きな気持ちを大切に、適度に休息もしながら、今できることを精一杯続けていきます。

今年度で学生生活が終わり、来年度から社会人1年目が始まります。小学1年生から全学生時代を共に過ごした珠算と、また新しい一步を踏み出していきます。まだ先のことで不安も大きいですが、初心を忘れることなく、今後も変わらず大好きな珠算に向き合っていけたら嬉しいです。